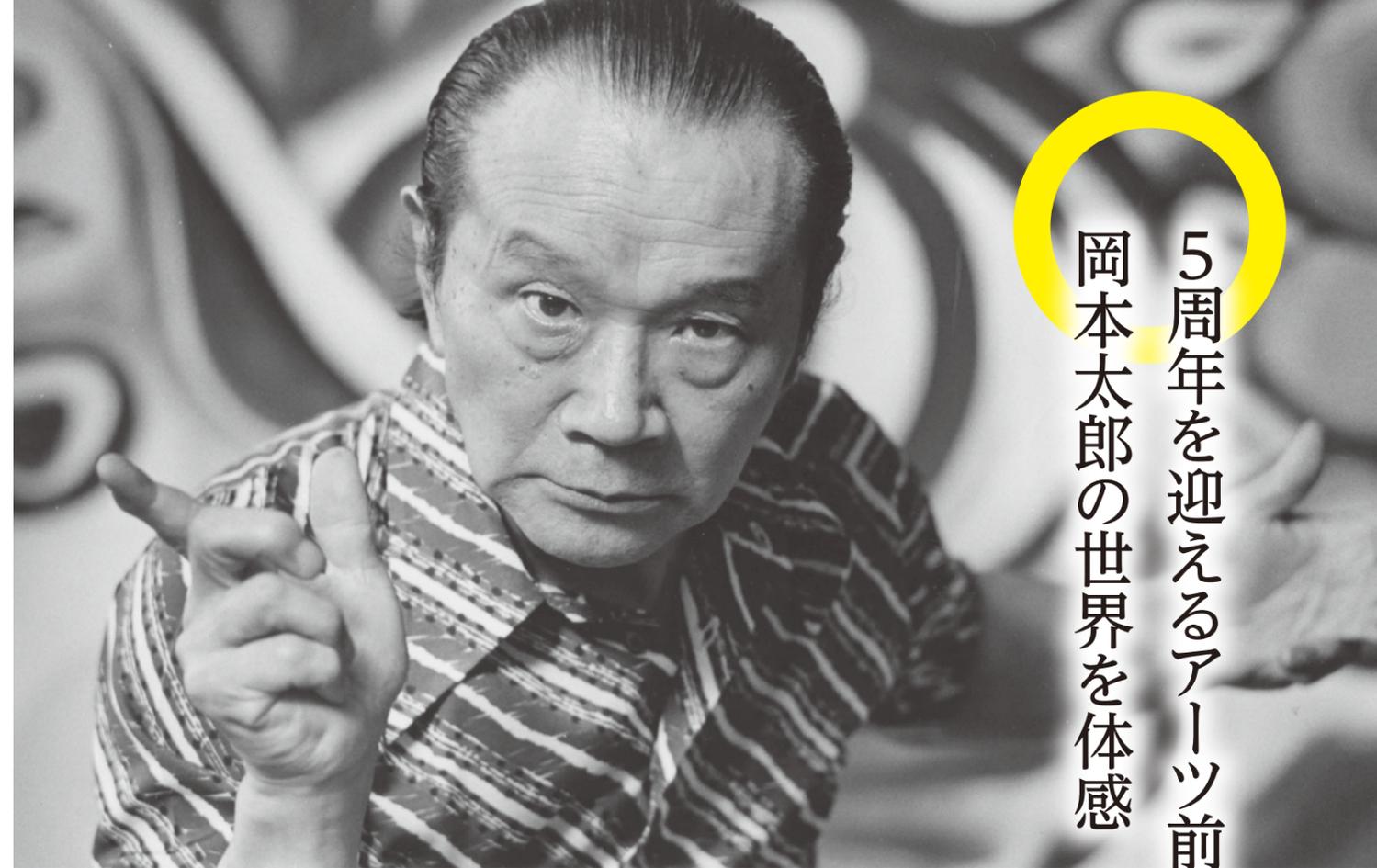


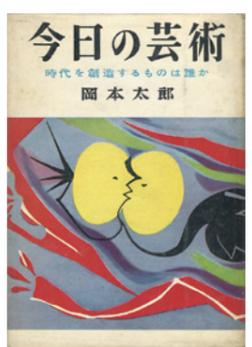


5周年を迎えるアーツ前橋で 岡本太郎の世界を体感



アーツ前橋開館5周年記念 10月は観覧料が無料になります

企画展は開館5周年を記念して10月5日(金)から30日(火)までは観覧無料です。また、観覧日当日に限り、観覧券の半券をマイバスの運転手に渡すと一乗車無料になります。広瀬川河畔にやって来た「太陽の鐘」とともに、岡本太郎の世界を体感してみませんか。
日時 10月5日(金)～来年1月14日(月) (水曜・年末年始を除く)、11時～19時(入場は18時30分まで)
費用 Ⅱ(一般) 600円(学生・65歳以上・団体(10人以上)) 400円



●『今日の芸術』とは?
1954年に刊行された岡本太郎の代表的著作。美術書としては異例の、10万部を超えるベストセラーとなった。美術作品との向き合い方などを説き、芸術家の横尾忠則など、影響された文化人も多い。



●太陽の鐘割
携帯やカメラで太陽の鐘を撮影した写真を受付で提示すると、観覧料が400円になります。

関連イベントでさらに楽しもう

- 記念講演会
「岡本太郎と読む『今日の芸術』」
ベストセラー美術書『今日の芸術』と岡本太郎の思想が戦後社会に与えたインパクトについて本展監修・春原史寛による講演会を行います。
日時=11月11日(日)14時～16時
対象=一般、先着40人
- 前橋に太陽の鐘が鳴る
前橋広瀬川河畔に設置された太陽の鐘を特別に鳴らすことができます。
日時=12月2日(日)13時～14時
対象=一般、先着100人
申し込み=以上の2つはアーツ前橋へ

岡本太郎(1911-1996)

漫画家の岡本一平、歌人・小説家の岡本かの子の長男として生まれる。絵画・立体作品とともに多数の著作を発表。1970年の日本万国博覧会ではテーマ館プロデューサーを務めたほか、テレビやマスメディアにも精力的に出演し、多方面で活躍した。



(右) 岡本太郎《足場》1952年一般財団法人草月会蔵(東京都現代美術館寄託) ©内田芳孝 (左上) 岡本太郎《憂愁》1947年一般財団法人草月会蔵(東京都現代美術館寄託) (左下) 岡本太郎《コントロールポアン》1935/54年東京国立近代美術館蔵

見どころはパワフルな作品の数々!

岡本太郎作品は一点一点がパワフルで、作品の前に立つだけで圧倒されるものが多くあります。今回の企画展では、岡本太郎が戦後の社会にどのようなインパクトを与えたかに着目しています。絵画だけでなく、テレビ、CM、ラジオなどさまざまな形式で自身の表現を行った岡本太郎。会場では彼の作品のほか、貴重な映像・音声資料も視聴できます。
また、岡本太郎に影響を受けたアーティストの作品も展示します。前橋出身のアーティスト・関口光太郎が太陽の塔へのリスペクトを込めて、この展覧会の

ために作成した6m超のオブジェは地下から1階への吹き抜けを突き抜けるように展示され、迫力が感じられると思うのでぜひ見に来てください。そして、展覧会の後は前橋にやってきた「太陽の鐘」を見に、広瀬川まで足を伸ばしてみてください。



アーツ前橋学芸員 若山 満大

アーツ前橋
027・230・1144

アーツ前橋は10月で開館5周年を迎えます。これを記念して、岡本太郎の1954年の著作『今日の芸術』をテーマに企画展「岡本太郎と『今日の芸術』」を開催します。岡本太郎は本書で、「芸術は万人によって、鑑賞されるばかりでなく、創られなければならない」と述べました。自分たちの感性で芸術に触れ、自分たちの手で文化を作り上げていくことを訴えかけたメッセージは、同時代の若者や芸術家を挑発しました。
企画展では岡本太郎の往年の作品が、東京国立近代美術館や川崎市の岡本太郎美術館から集まります。作品や映像資料のほか、彼に刺激を受けた芸術家たちの作品をとおして、今もなお私たちを鼓舞する岡本太郎の思想やメッセージを紹介します。